

ごあいさつ



平素より気仙沼信用金庫に対しまして、格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。

ここに、当金庫の経営方針や業務内容、財務内容をはじめ、東日本大震災からの復興へ向けた各種取組みをご理解いただくため「気仙沼信用金庫ディスクロージャー2018」を作成いたしましたので、ご高覧頂ければ幸いです。

さて、早いもので東日本大震災から7年の歳月が経過しました。

当金庫も甚大な被害を受けた中において、今日まで「震災からの一日も早い復興」を経営の最重要課題と定め、金融庁、東北財務局、信金中央金庫並びに気仙沼市からの多大なご支援を頂戴しながら、被災者支援と復興へ全力を傾注して参りました。

地域の復興は未だ道半ばではありますが、念願でありました大島架橋の設置や三陸縦貫自動車道の北進と気仙沼市内での一部開通、更には災害公営住宅並びに気仙沼市立病院の落成など明るい話題が多く報じられるようになりました。

然しながら、当地域は一時の復興特需が業種によってはピークを越えたことでの需要の減少や、震災の風化による観光客の減少、基幹産業である漁業や水産加工業では主要魚種の水揚げ不振と、それに伴う仕入コストの増加など苦戦を強いられ、また、震災以降続いている雇用のミスマッチによる労働力不足や販路回復の遅れから、地域経済は依然として低調のまま推移いたしております。

この様な環境ではありますが、平成30年度も地域経済の活性化を図るために行政や商工会議所との連携を密にして、積極的な金融仲介機能を発揮し、共に成長・発展していくという「好循環」「顧客との共通価値の創造」の実現に向けて役職員一丸となって邁進して参る所存でございますので、一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年7月

気仙沼信用金庫
理事長 菅原 務

